

秋が来た、内子の

文化祭・農業祭

前日までの台風による雨も上がり、さわやかな秋晴れとなった11月3日、町内各地で文化祭・農業祭が開催されました。今年は文化の日が日曜と重なったため、6つの祭りが同日開催に。芸術の秋や食欲の秋を楽しむ催しが各所で行われ、大勢の人でにぎわいました。

今回の巻頭ページでは、地域ごとの特色ある祭りの様子を写真で紹介します。イベントを盛り上げてくれた皆さんには、それぞれの祭りの魅力について語ってもらいました。

第49回大瀬農業祭柿まつり

11月3日 大瀬商店街他

大瀬の農業、農家が元気になれる祭りを続けたい

実行委員長 高岡 ^{かつより}勝頼さん

大瀬農業祭はもともと大瀬地区の各自治会の産業部を中心にした催しです。地域の特産品である柿をPRする目的で、平成23年に現在の「柿まつり」へと名称を変更しました。せり売りや詰め放題、種飛ばしや皮むき大会など、柿を中心とした農産物関連のイベントが盛りだくさん。町外でせっせとチラシ

を配った成果か、松山市や伊予市などの近隣からも大勢来ていただいたようです。大瀬中学校の生徒の皆さんも、販売や会場アナウンスに活躍してくれました。

来年は節目の50回目。丹精込めて育てた作物をお客さんに楽しんでもらい、農家が元気になるような催しができればいいですね。



1_柿の皮むき大会の様子 2_立派な柿を手に、にっこり笑顔
3_種飛ばし大会にて、渾身のひと吹き 4、5_焼き魚やうどんなどのバザーも実施 6_さまざまな農産物をPRした



去年、大瀬に引っ越してきた私は柿まつりに参加するのは今回が初めて。中学最後の年に地元の祭りに行ってみたいと思い、ポップコーンと綿菓子の販売の手伝いに手を挙げました。お客さんとして行くのと違って、運営は思った以上にやることが多くて大変。それでも何度も買いに来てくれる人もいてうれしかったし、終わった後は達成感がありました。

大瀬地区のことはまだ知らないことも多いけれど、柿まつりはすごくにぎわっていて、地域の一大イベントだと感じました。柿の詰め放題はすぐに完売するほどの人気で、せり売りはまるでテレビで見えるように本格的。何よりたくさんの方が楽しそうにしているのが印象的でした。私が大きくなった時にも、変わらずにぎやかに続いてほしいです。



滝野 ^{ゆきな}由捺さん
=中野=

地域の元気が伝わる祭りにぎやかに続いてほしい

第30回石畳水車まつり

11月3日 石畳清流園

地域手づくりの祭りは石畳らしく、楽しむことを大切に

実行委員長 寶泉 ^{たけのり}武徳さん

今年はスタッフが約120人、地域人口の半数近くが関わっています。他にも縁のある町外の方が応援に来てくれることも。人が集まる力は大きいです。

水車まつりでは石畳名物のそばはもちろん、タレからこだわった焼き鳥、羽釜で炊いたご飯のおにぎりなど、なるべく地元のものを出すのが決まり。今年

で30回となりましたが、みんな年を取るのも同じようにいかないこともあります。大事なことは自分たちが祭りを楽しむこと。イベントに関わり満足感を得られるから、「次はこうしよう」と皆さん前向き。その積み重ねでここまで来られています。「ひとつ守る、ひとつ変える」の気持ちで、石畳らしさをつないでいきたいです。



1_水車小屋周辺では川のせせらぎも楽しめる 2_早朝から餅つきが続く 3_釣り堀に挑戦する子どもたち 4、5_会場では名物の石畳そばや、焼き魚なども楽しめる



祭りではそばの販売を担当しました。石畳には幼い頃から、近所付き合いなどの横のつながりを感じていました。「困っている人には協力する」とか、「できることはしてあげたい」という気持ちが、みんなに当たり前にあります。だから祭りでも団結力があるし、こんな田舎まで来てくれた人には、おいしいものを食べて喜んで帰ってほしいんです。このすてきな伝統を絶やしたくない——。県外に住んだ時期もある私には、改めて田舎が魅力的に映っています。

子どもたちにも都会にはない体験をしてほしいです。たとえば自分で釣った魚を串に刺して、焼いて食べたり。ずっとじいちゃん、ばあちゃんと一緒に住んでいたからかな（笑）。買った何でも手に入るけれど、そんな今こそ、昔ながらの遊びも知ってもらえたらいいですね。



亀田 ^{つかさ}つかさん
=石畳9=

住む人にも訪れる人にもやさしい田舎の人の温かさ

第35回小田の郷ふるさとまつり

11月2～3日 道の駅小田の郷せせらぎ他

子どもから大人まで、みんなに「ふるさと」を感じてほしい

実行委員長 西口 邦彦^{くにひこ}さん

ふるさとまつりには例年、松山市周辺に住む小田出身者の会「小田郷会」の皆さんを案内していました。会員は約500人。今年は前日までの台風の影響でバスをキャンセルせざるを得ませんでした。当日は自主的に多くの皆さんに会場に足を運んでもらいました。ふるさとの祭りとして楽しみにしてもら

えていることをうれしく思います。

昨年からは内子高校小田分校の文化祭も同時開催しています。生徒らによる作品展示や、ステージでの英語劇の発表などもあり、大人たちから「すごいなあ」と感心の声が寄せられ大好評でした。子どもから大人まで、皆さんに「ふるさと」を感じてほしいですね。



1_スバル前で獅子舞の披露 2_協力して餅の販売 3_木工体験は子どもたちに大人気 4_小田の郷土料理・たらいうどん。いつも変わらないおいしさ 5_ポニー乗馬も楽しめた

皆さんの心に残るふるさとの味を提供したい

JAえひめ中央小田ブロックの女性部で、うどんや赤飯のパザーを毎年担当しています。今年は準備から延べ50人以上が参加。拔群のチームワークを生かし、各持ち場を適材適所で決めて、今年も900食のうどんを無事に販売しました。本当に皆さんの協力があってこそ、感謝でいっぱいです。

小田名物といえば「たらいうどん」。柔らかいうどん、大豆とシイタケでとった出汁が、皆さんの故郷の味です。感染症対策のため、今はたらいではなくぶっかけうどんを提供していますが、80代のお客さんから「本当にそのままでの味ですよ」と言ってもらい、うれしかったです。子どもの頃から食べてきた母の味は、ずっと心に残るもの。来年もふるさとまつりに帰ってきて、思い出を積み重ねていってほしいです。



水本 初子^{はつこ}さん
＝中田渡3＝

第44回五十崎文化祭

11月3日 五十崎自治センター

活気あふれるステージパフォーマンスも魅力

実行委員長 河本 進^{すすむ}さん

五十崎文化祭は芸能発表会とあわせて、内子町文化協会五十崎支部の成果発表の場の一つです。バンド演奏、和太鼓、ストリートダンス、フラダンスなどのステージ発表が多いのは、ここ五十崎の特徴かもしれません。舞台から会場を盛り上げてもらおうと、イベントが一段とにぎやかになります。毎年来てくれる

人にも楽しんでもらえるよう、発表の内容も皆さんが工夫してくれていて、見どころが多いです。

今後は新たに若い人たちもそれぞれの好きなことを生かして、ステージに立ってくれたらうれしいですね。皆さんが打ち込むことを表現できる場としても、五十崎文化祭が続いていってほしいと思います。



1_迫力ある和太鼓の演奏で観客を魅了 2_華やかな衣装も見どころのフラダンス 3_杵つき餅を会場でこしらえる 4_生け花などの作品展示も 5_子どもたちもダンスで盛り上げた

おもてなしの心に笑顔と癒しをもらえた

大洲市のフラダンスのグループ「レイアロハ・メリア」で活動しています。練習のため共生館を貸してもらったご縁で、五十崎文化祭に初めて出演しました。当日は6人のメンバーで4曲を披露。普段は室内で踊ることが多いですが、五十崎の野外ステージで風を受けて踊ると新鮮な気持ちで、とても心地よかったです。お客さんとの距離も近く、手拍子をしてくれるなど、温かかったです。

五十崎文化祭はバザーも魅力的。運営する皆さんの言葉ひとつひとつには、おもてなしの人情を感じました。一緒に踊ったメンバーも「ゆったりした雰囲気がいいね」と大満足。フラダンスといえば「笑顔」と「癒し」ですが、それを私たちも与えてもらいました。またぜひ参加したいです。



餘家 里美^{さとみ}さん
＝大洲市＝

立川地区文化産業祭

11月3日 立川自治会館

祭りは住民が集い、関われるコミュニティづくり

立川自治会長 寺岡 久夫さん

立川文化産業祭といえば農産物品評会。今年は暑さもあってか出品数は少なめでしたが、立派な農産物が会場に並びました。また各区の皆さんが野菜などを販売した他、おなじみとなった軽トラ市、個人で普段販売されている食品や雑貨などの出店もありました。皆さんがそれぞれ会場に持ち寄り、楽しく盛

り上げられる今の形があるのは、区長さんをはじめ地域のつながりがあるおかげだと思います。祭りで大切にしたいのは、皆さんが集まり、関われる場所であること。役員さんには苦労をおかけするけれど、やりだしたらやっぱり楽しいものです。大事なコミュニティの場として、やりがいのある催しを継続していきたいです。



1_農作物が並び品評会 2_おしゃべりも楽しい 3_スコップ三味線の披露 4、5_販売コーナーも充実

「またいいものを作りたい」と思わせてくれる
5年ほど前から農産物品評会に出品するようになりました。ホウレンソウ、ナス、白菜、ユズ、栗、ネギ……。品数はもしかすると一番多いかもしれませんが、今年は愛宕柿が金賞をもらいました。農業を50年以上しています。最近では気候が変わって何を作るにも難しくなっています。一生懸命育てたもので受賞するのは、やっぱりうれしいものです。またいいものを作らないといけない、と張り合いが生まれますね。
近所には「二宮さんも出しているから」と、出す品物を増やした人もいます。こんな風にみんなで協力して、少しでも地域を盛り上げていきたいですね。今年は忙しくて会場には行けなかったけれど、来年はぜひ祭りの雰囲気も味わってみようと思います。



二宮 秀明さん
=立川袋口=

第16回うちこ文化祭

11月2～4日 内子自治センター

見ごたえのある作品の数々を楽しんでほしい

実行委員長 山本 州一さん

今年はだいぶコロナ前の状況に戻り、バザーやブラスバンド演奏などの催しを、ようやく全面的に実施することができました。うちこ文化祭では内子町文化協会内子支部の作品展示も行っていますが、同支部美術部の皆さんはこの日に向けて作品作りをしており、大切な発表の場です。今回も会場には書道

や生け花、絵画、俳句など、素人の私が見ても「これはすごい」と思われる力作が並びました。数は文化協会だけで160点以上、加えて保育園や小・中学校、高校からも集まっており、いくらでも時間がたってしまうほど見ごたえがありました。皆さんにぜひ足を運んでもらい、味わってもらいたいです。



1_内子中学校吹奏楽部による演奏 2_きれいな花の苗の販売 3_高校生も力強い演奏を披露 4、5_保育園や学校、文化協会会員の作品も数多く並んでいた

自治会を超えた交流も
うちこ文化祭の魅力
私たち中央自治会ではバザーで焼きそばを350食用意しました。といつても男は荷物を運ぶくらいなので、女性部の皆さんの活躍があつてこそです。売り上げは災害への備えとして自治会で蓄えることにしています。
目的があれば販売にも力が入るもの。地域の皆さんに還元できる活動につながればと思っています。
今回は内子自治センター管内の多くの自治会から出品がありました。他の自治会の皆さんと交流できるのも、この祭りのいいところ。井戸端会議をして、それぞれのやり方を参考にさせてもらったり、悩みを共有したり……。うちは内子管内で一番規模が小さな自治会なので、今後も皆さんと一緒にイベントを盛り上げていけるとありがたいです。



徳田 健市さん
=内子7=